

いちよう ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者のご家族に喜んでいただけるようなサービスを心掛け、理念を共有し、職員に意識づけしています。	「個々の尊厳を大切にしながら、住み慣れた地域で心穏やかに安心して生活できるホームを目指します」を理念として、玄関に掲示している。職員は理念に基づいたケアを、日々心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺に住宅がない為日常的な交流はできていませんが、周りに地域住民の方の畑があり、花を頂いたり、野菜の作り方を教わることで交流を図っています。	ホームは住宅等から離れた環境にあるが、隣接している畑を借りて、特養やデイサービスなどの利用者と一緒に楽しむなど、交流できる機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設全体の紹介のチラシで地域住民の方に対し、相談窓口を設けています。事業所としても高齢者の暮らしに役立てるよう取り組みます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開き、月ごとの活動報告や事故報告をしています。会議で出た意見を取り入れることでサービスの向上に生かしています。	運営推進会議には地域包括支援センター職員や民生委員も参加しており、ホームの状況を把握のうえ、意見をもらっている。議事録も適切に整備され、職員間で共有されている。	会議の検討テーマに沿った支援者（消防署員や警察官、医療従事者など）の参加を求めたうえで、利用者家族や自治会の参加を募ってはどうか。また、他のグループホーム職員と連携することも有意義であると思われる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	各種変更届けや、新しく加算を取る時など、疑問点やわからない事があれば相談や指導して頂いている。	実地指導や請求業務をきっかけとし、市の担当者とは連携を図れている。加算の算定根拠を確認し、正しく請求することで利用者のケアに活かすことができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束については法人である特養との合同内部研修に年2回参加し、共有認識を図っている。道路に面していない事もあり、玄関の施錠はしていない。	身体拘束ゼロを継続している。施設内でも勉強会を実施し、身体拘束や虐待に対する理解を深めるよう努めている。	3ヶ月に1回の開催が義務付けられている身体拘束検討委員会の活用方法を見直し、今後重度化していく入居者の状態を話し合い、柔軟に対応いただきたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については法人である特養との合同内部研修に年2回参加し、共有認識を図っている。虐待の事実が見過ごされることのないよう入浴時などに身体チェックをしています。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>今後、外部研修が可能になれば、受講できるようにしたいと思います。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入退居時の契約及び解約は、ご利用者ご家族様に十分に時間を取って理解して頂き、了承を得ている。また改定等の利用料変更はお知らせと同意書で理解して頂いている</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や家族様、法人全体の行事などご家族様の思いや苦情を聞く時間を設けています。又、玄関には家族様用に意見箱を設置しています。</p>	<p>家族の面会時には職員から積極的に声かけをして、利用者の日頃の様子や連絡事項を伝えている。</p> <p>2か月に1度「しらかばグループホーム便り」を家族に配布してグループホーム全体の様子や連絡事項を写真入りで報告し、その他の月は個別に利用者の状況報告、その他連絡事項等を写真と共に送っている。面会回数の少ない家族にはメールや写真で利用者の様子を知らせて喜ばれている。</p>	
11	<p>職員会議でできるだけ多くの職員の意見や提案を聞き反映できるように努めている。</p>	<p>日頃から、職員同士で意見を言い合える環境が整っている。</p> <p>ユニット会議やリーダー会議を開催し、カンファレンスや利用者の状況、業務関係の課題や改善方法について検討してサービスの向上に努めている。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事評価により個人の目標項目で向上心が確認できます。又、リーダー・管理者で評価を記入し法人の施設長と面談する事で個々の努力を給与に反映できるように努めています。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に行く機会は難しくなっていますが、法人全体の内部研修で職員全員が参加できる体制を組んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他グループホームの管理者との交流を深める事で学ぶ事が多く、サービスの向上に役立っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なぜ、自分がここにいるのかが理解できなく不安を感じられる利用者様には、職員と何度もお話しする事で安心して生活していただけるように努力しています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初や、入居されてからも、面会時や家族会などで話す機会を持つことで家族様との関係づくりに努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前、契約時に管理者・ケアマネ・診療所の医師を含めた面談の時間を取っており、本人やご家族の思いをしっかりと聞く事で、必要なサービスを支援できるよう努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と一緒に暮らす事ができない状況にあるご利用者にとって、ここが安心して暮らせる場所として同じ目線で関係を築く心掛けをしています。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会も頻繁にあり、その都度ご利用者の要望や希望を話し合う事で、ともに支えて行く関係を築けるよう努めています。		
20	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やお友達といつでも、交流できるよう面会日や時間をきめていません。又、外出に対し送迎などの協力をさせて頂いています。	地域に密着した事業所として、利用者の友人や知人等、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。コロナ禍でも距離を保った最低限の面会を検討し、関係継続を支援しようと奮闘している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両フロアが続いている事で利用者同士スムーズに行き来が出来ます。又、行事やレクレーションはみんなが集まって楽しんで頂いています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設周辺に住んでいる方が多く、退居後も家族様が遊びに来られる事もあり、相談等誠実な対応に努めています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	精神的に不穏になった時など事務所で話を傾聴しながら、アロマオイルで手をマッサージしたり、事務所でおやつやジュースを飲んで頂いています。	利用者の思いや意向を把握して申し送りノートに記入し、職員間で共有している。また、利用者の思いをよりよく理解できる様に、職員は優しく触れることで利用者の不安を和らげ、表情豊かに話を進めていく手法である「タクトイールケア」を学び日々の支援に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や、面会時など積極的に家族様と会話する機会を設け、利用者の生活歴や馴染みの暮らしを把握するために情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の暮らしに沿って本人の生活の中からできる力を把握し、職員全体がチームとして状況を共有できるように話し合いを持っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に基づいて職員は毎日援助項目事に実施状況をモニタリングしています。又、ケアプラン更新時にはユニット会議で話合ったり家族様と話しあっています。	ケアプランは6ヶ月ごともしくは状況が変われば見直している。介護スタッフが入居者や家族から知り得た情報は、計画作成担当者とも情報共有を図り、ケアプランに反映させるよう努めている。	入居者や家族から聞き取った想いをケアプランに言語化し、それに基づく目標と期間を設定してみようか。それにより、ケアプランに個性が表れ、自分たちを理解してもらえているという安心感に繋がると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の更新時、毎日チェックする実施記録や個人日誌などで情報を共有する事で日々のケアの実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人の特養が隣接している為、将来的なご家族の要望への対応も可能です。特養との合同の行事や、デイサービスの催しにご利用者も参加されています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接している特養との協力体制の他、運営推進会議での地域包括センターや民生委員との交流機会の確保により、安全な暮らしに向けた支援に努めています。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>隣接している診療所と医療連携を取っており、常勤医師による毎日の訪問診療で日々の健康チェックを行っています。協力医療機関として訪問歯科や訪問クリニック（精神科）の利用もして頂いています。</p>	<p>併設された診療所をかかりつけ医としており、利用者は、日々健康状態のチェックを受けることができる。夜間や緊急時への24時間オンコール体制が整っており、利用者・家族、職員の安心に繋がっている。必要な利用者には歯科や精神科、皮膚科の受診体制も整っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援</p>	<p>隣接診療所との24時間医療連携を取っており、相談など常に指示を仰いでいます。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>ご利用者の入退院の際は、病院の地域連携室と情報交換しながらスムーズに早期退院が実現できるよう積極的に支援を行っています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携がとれていることから、重度化や終末期に向けた指針については入居前の契約で同意を得ています。各段階ごとの看取りまでの同意書の確認も、ご利用者の体調に合わせてその都度、ご家族と話し合う機会を設けています。</p>	<p>併設医療機関と連携し、重度化した場合の対応や終末期の看取りについて、経験に基づいた本人や家族の希望に基づいたケアが実践できている。常に思いに寄り添った対応を心掛けているため、利用者家族からの信頼も厚く、安心して任せられる施設となっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>施設内で年1回救命講習や緊急時の対応の勉強会があり、積極的に参加しフィードバックすることで個々のスキルを高める努力をしています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時は隣接している特養の協力体制を築いており、年2回の日中・夜間想定避難訓練を実施しています。</p>	<p>年2回夜間想定を含めて、初期消火、避難誘導、消火器の使い方の避難訓練を実施している。備蓄は水分や米等を1階の倉庫に保管している。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いなどは、その都度注意し、各職員にも申し送りノートで周知させます。新人職員に対しては、新人教育、接遇のマニュアルの講習をしています。	入居者との言葉遣いにおいて、親しみやすさと馴れ馴れしさとの違いを理解し、場面ごとの対応のメリハリをつけることを職員全員が常に意識するよう指導を行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の状態に応じてコミュニケーションの方法を変えながら、意思の疎通を図り、日常生活のさまざまな場面において、ご利用者の希望の表出が可能となるように働きかけています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で排泄や食事など、どうしても職員側本位の介護のペースに合わせてまいがちですが、出来るだけご利用者のペースを把握し無理のないように支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容を利用して頂いたり、更衣の際に好みの服を選んで着用して頂いています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホーム内のキッチンで食事を作る事がなくなったため、準備は難しいですが、お盆拭きやテーブル拭きなどのお手伝いをして頂いています。	お米はホームで炊いているが、おかずは隣接する特養の厨房から3食届く。栄養管理の行き届いた食事を、温かいものは温かく提供している。職員は、利用者の体調やタイミングを見計らい、出来る支度を一緒に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事や水分量を記録として残り医務や管理栄養士と相談しながら提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に無理のないように、口腔ケアを実施しており、義歯の不具合や虫歯等があれば訪問歯科を利用しその都度、衛生士から指導して頂いている。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者様の排泄確認を記録している。おむつ対応の方も、排便の際はできるだけトイレでの排泄を心掛けている。	職員は「排泄表」にもとづき、利用者一人一人の排泄パターンを把握して、個別に声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜はオムツの方も昼はリハビリパンツを使用し、利用者が自分でできる能力を伸ばす細やかなケアを心がけている。

44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設で提供する食べ物以外に牛乳を飲んで頂いたり、個人の希望に沿い、野菜ジュースを飲む事で薬だけに頼らず自然排便を心掛けています。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は設定させて頂いておりますが、個浴と大浴があり、ご利用者の希望に沿って入浴して頂いています。また、入浴剤の使用や季節風呂の機会を設け楽しめるよう支援しています	入居者一人一人の状態や希望に合わせて、入浴のタイミングや入浴方法を調整している。 利用者の重度化によって職員二人体制での入浴としたり、体調によっては清拭を行う等、きめ細かな支援をしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はすべて個室であり、日中にいつでも休んでいただけるよう声掛けしています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は調剤薬局にお願いしており、薬剤効能など気軽に相談しています。又、個人の処方薬に対し細かく丁寧に助言をいただいています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様数人で中庭にある自動販売機で好きなジュースを買って談笑したり、散歩をできるよう支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と外出や外泊も気軽にさせて頂き、普段外出できない利用者様は職員と買い物や外食をしたりします。	季節感を感じながら、近所の散歩をしたり、中庭で外気浴を楽しんだりして、なるべく外の空気に触れる機会を作っている。 やむを得ず外出できないときには、施設内での行事を充実させ、利用者が日々の変化や季節の移り変わりを感じられるよう努めている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしている小口現金で近くのコンビニまで買い物に出かけたり、施設内の自動販売機で飲み物を買って頂いています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯を持ち込みされている方もおられますが、事務所の電話で家族様とお話しされる方が増えてきています。家族様からの手紙もとても喜ばれます。		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各フロアには天窓があり、採光には配慮しています。中庭などで咲いた花などを洗面台や玄関に飾り季節感を楽しんで頂いています。トイレは車いす使用など用途に合わせて計6カ所設置しています。</p>	<p>共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾をし、利用者が作製した作品を掲示している。</p> <p>食堂テーブルやソファークーナーでは、利用者がテレビを見たり、音楽を聞いたり、洗濯物をたたんだり、それぞれがゆったりと過ごすことができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各自独立した居室があり、食堂と今が兼用となっています。仲のよい利用者同士各居室を訪室し談話されています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご利用者によってはテレビやソファ、自宅で過ごされている時の飾りや置物を置く事で落ち着かれています。</p>	<p>居室入口には職員が作った表札を飾るなど自室がわかるようになっている。</p> <p>利用者や家族の希望に合わせて、自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込んでもらい、家庭的な第二の住まいとして意識いただけるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーのため、車いすのご利用者にも無理なくフロアを移動して頂いています。</p> <p>又、トイレの場所や居室のタンスにラベルを貼る事で自立した生活を送れるように工夫しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪れてきている		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度

19	八ヶ岳地域の八ヶ岳が助かっている (参考項目：9, 10, 19)	○	③たまに ④ほとんどいない
----	--------------------------------------	---	------------------

65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)</p>	○	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)</p>	○	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない</p>